

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒に次の3つの力を育み、生徒の自己実現を支援するとともに、「次代の地域社会の、良識ある担い手」を育成する。

1. 知力・体力・人間力！～《自ら学ぶ力》の育成
2. 進路（自己）実現をめざす！～《セルフ・コントロールの力》の育成
3. 人権感覚と豊かな人間性！～《人間関係づくりの力》の育成

2 中期的目標

1. 「自ら学ぶ力」の育成

(1) 学習への興味・関心の向上、基礎学力の定着、進路目標の早期設定等を通じて、達成感と自信、「やる気（意欲・意志）」を高めつつ、主体的に学習する態度を身につけさせる。

ア 「わかる！楽しい！授業づくり」

公開授業や研究授業、授業アンケート等を効果的に活用し、授業改善を進める。その際、全普通教室に配備したプロジェクター等を利用して、ICTを活用した授業の充実を進める。

指標 生徒による授業アンケート中の「授業に、興味・関心をもつことができたと感じている」の肯定的評価の前期・後期の平均値（平成24年度実績＝70.9%、平成25年度実績＝79.8%）が平成27年度実績で85%以上。

指標 平成27年度実績で、生徒向け学校教育自己診断における項目「授業はわかりやすい」の肯定的評価を70%以上（平成25年度実績＝65.2%）、「授業は楽しい」を65%以上（同54.6%）とする。

指標 生徒向け学校教育自己診断における「伯太高校には、教え方に工夫をしている先生が多い」の項目の肯定的評価を、平成27年度実績で60%以上（平成24年度実績＝40.1%、平成25年度実績＝55.5%）

指標 ICTの活用については、授業での使用を2,000回/年以上（平成24年度実績313回/年、平成25年度実績1,860回/年）。

イ 基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざした取組について検討を進め、指導内容及びカリキュラムの工夫・改善を図る。

指標 生徒による授業アンケート中の項目「授業を受けて、知識や技能が身に付いたと感じている」の肯定的評価の平均値（平成24年度実績＝71.1%、平成25年度実績＝81.1%）が平成27年度実績で85%以上。

ウ エリア選択と多様な選択科目のガイダンスや進路HR、「グローバル・スタディーズ（GS）」（「総合的な学習の時間」）の取組等を通じて、生徒に将来の進路目標を早期に持たせ、学習活動や基本的生活習慣確立への動機付けを進める。

指標 進路希望調査の「未定」の回答割合（%）を、1年次から2年次にかけて半減させるとともに、3年次ではゼロに近づけるよう取り組む。

(2) 参加・体験型の授業実践を工夫し、生徒の言語活動を充実させることを通じて、生徒の「自分で考える力」、「自分を表現する力」、「発表する力」、「相手とコミュニケーションする力」の向上を図る。

ア 各教科・科目の授業において、生徒の言語活動を充実させる。その際、生徒自身がICTを用いる授業を充実させるようにも取り組む。

指標 普通科総合選択制高校共通アンケート（卒業前に実施）の上記4項目における肯定的評価が全項目とも平成27年度実績で55%以上（平成24年度実績は、それぞれ47.9%、44.3%、34.9%、45.3%、平成25年度実績は61.0%、49.7%、34.3%、51.3%）

指標 ICTの活用については、授業での使用を2,000回/年以上（平成24年度実績313回/年、平成25年度実績1,860回/年）。（再掲）

2. 「セルフ・コントロールの力」の育成

(1) 将来にわたって社会生活の基礎となる基本的生活習慣の形成を図るとともに、規律・規範意識の醸成と社会人としての態度・マナーを育成する。その際、生徒との信頼関係を大切に、一人ひとりの生徒に寄り添いながら、家庭と連携した生徒指導に努める。

ア 学校生活の継続を困難化させる大きな要因となり得る遅刻・欠席等の状況の改善及び授業規律の確立を図る。

指標 平成26年度実績で「教務遅刻」数を14,000回以下、欠席数を7,000回以下とし、以降も毎年減少させる（実績：教務遅刻＝(H23)21,448回、(H24)19,484回、(H25)14,331回、欠席＝(H23)9,178回、(H24)7,668回、(H25)8,424回）。

指標 生徒向け学校教育自己診断における「授業では騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」の肯定的回答60%以上（平成25年度実績＝27.5%）。

イ 「ダメなものダメ」と厳しく指導しつつ、生徒一人ひとりの課題を踏まえ、生徒や保護者の思いをくみ取る生徒指導を進める。

指標 生徒向け学校教育自己診断の「伯太高校の先生は生徒の意見を聞いてくれる」、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」、「学校生活についての先生の指導は納得できる」、「生活規律や学習規律などの基本的生活習慣の確立に力を入れている」の各項目の肯定的評価が平成27年度実績で60%以上（平成24年度実績は、それぞれ47.5%、44.5%、44.0%、47.7%、H25年度実績は、51.8%、51.1%、47.7%、59.5%）。

(2) キャリア教育の一層の充実を図り、進路意識を高めること等を通じて将来の目標実現（自己実現）に必要なセルフ・コントロールの力の育成に資する。

ア エリア選択と多様な選択科目のガイダンスや進路HR、「グローバル・スタディーズ（GS）」の取組等を通じて、生徒の将来の進路目標を早期に持たせ、学習活動や基本的生活習慣確立への動機付けを進める。（再掲）

指標 進路希望調査の「未定」の回答割合（%）を、1年次から2年次にかけて半減させるとともに、3年次ではゼロに近づけるよう取り組む。（再掲）

指標 卒業時の進路実績満足度が毎年少なくとも8割程度となるよう取り組む。（平成24年度実績：79.8%、平成25年度実績：88.6%）。

指標 卒業時（3月末）の進路未定率（浪人生含む）を、平成27年度に12%以下とする（平成24年度実績：16.7%、平成25年度実績：24.4%）。

イ 様々な資格取得の支援やインターンシップの充実を通じて、望ましい勤労観や職業観を身につけるとともに、主体的に進路選択ができる能力の育成を図る。

指標 当面は、「漢検」、「英検」、「書写検定」、「パソコン検定」、「危険物取扱者」等の資格取得者数が毎年90名以上（平成24年度実績106名、平成25年度実績106名）、またインターンシップによる単位認定者数が毎年20名以上（平成24年度実績19名、平成25年度実績20名）とする。

3. 「人間関係づくりの力」の育成

(1) 「人権が尊重された教育活動」を根底にすえて、「グローバル・スタディーズ（GS）」のみならず、すべての教育活動において、生徒をエンパワーするための取組を進め、一人ひとりの生徒が自らの課題に向き合いながら、その課題を解決すべく取り組めるよう支援する。そのために、生徒どうしがつながれるような仲間づくり、ネットワークづくりを重視する。

注「エンパワー」とは『無力感を感じていた者が自分自身に内なる力を感じるようになる』過程をさす言葉（志水宏吉『学力を育てる』p.167、2005年、岩波新書）

ア 挨拶を含め、教職員から生徒への声かけをこれまで以上に積極的に行くとともに、生徒をエンパワーするための「集団づくりの取組」を一層推進する。

指標 生徒向け学校教育自己診断の「伯太高校に行くのが楽しい」の肯定的評価が平成27年度実績で65%以上、「自分の学級は楽しい」が75%以上（平成24年度実績＝それぞれ60.2%、65.6%、平成25年度実績＝54.6%、68.1%）。

イ 責任感、連帯感などを涵養し「人間関係づくりの力」の育成に資するため、部活動の活性化を進める。

指標 部活動の加入率を40%以上、及び運動部の加入率を20%以上（平成24年度6月実績：部活動加入率＝35.0%、運動部加入率＝10.1%、平成25年度9月実績：部活動加入率＝36.0%、運動部加入率＝11.6%）。

(2) 地域とつながる取組を進め、教職員の「地域とともに子どもを育てる」という機運の醸成に努める。

ア 近隣の学校園等と連携・交流する取組や、生徒が地域にでかけていく取組を進める。

指標 現状の取組（地域清掃活動、支援学校交流、保育所交流、サイエンスカフェ）を継続させつつ、新たな取組を増やす。

※**指標** これらの全取組を通じて、退学者数の減少を図り、中退率で府平均値以下をめざす。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>1. 「自ら学ぶ力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校では、生徒の学習意欲を高めるため、「わかる！楽しい！授業づくり」の取組みや基礎学力の定着をめざす取組み、進路目標の早期設定の取組み、そして言語活動の充実を図る取組みを進めてきたが、公開研究授業の実施やICTの活用、また各講座で例えばグループワークなどの授業形態が増加傾向にあることなどを通じて、その成果が現れつつある。 まず、授業満足度についてであるが、H24年度の学校教育自己診断において「授業はわかりやすく楽しい」という項目の肯定的評価は43.0%であった。H25年度からこれを2項目に分割してアンケートをとっているが、項目「授業はわかりやすい」の肯定的評価は、H25年度が65.2%、H26年度が65.3%、また項目「授業は楽しい」の肯定的評価は、H25年度が54.6%、H26年度が59.3%となった。 また、「教え方に工夫をしている先生が多い」という項目の肯定的評価は、H24年度の40.1%からH25年度は55.5%、H26年度は60.8%と大きく改善しており、授業におけるICTの活用量の増加（H25年度実績1,860回、H26年度（2学期末時点）実績2,606回）に象徴される教員の努力が、生徒にも確実に伝わっている。このことは、H26年度の授業アンケートにおいて、「授業に興味・感心を持つことができたと感じている」の肯定的評価が前期の77.4%から後期の80.9%に上昇していることにも見て取ることができる。 さらに、「伯太高校の授業では、自分の考えをまとめたり、発表する機会がある」でも肯定的評価がH24年度の42.5%からH25年度52.4%、H26年度63.1%に増加している。これは、ICTの活用をしながら各々の教員が授業の工夫を行い、知識伝達という従来の一方通行の授業ではなく、生徒の意見を引き出しながら授業を進めるという学習スタイルが定着しつつあることを示していると考えられる。 しかしながら、一定の改善はできてきているとはいえ、35%～40%の生徒は授業を「わかりやすい」、「楽しい」と感じていないのが現実であり、今後も一層、生徒にとって「わかる！楽しい！」が実感でき、生徒の意欲を高める授業改善に努めていく必要がある。 一方、進路指導に関する質問項目については、「進学についての情報を知らせてくれる（H24年度項目なし、H25年度62.3%、H26年度75.2%）」、「就職についての情報を知らせてくれる（H24年度項目なし、H25年度59.3%、H26年度73.5%）」という設問では、いずれもH25年度より10ポイント以上、また、「将来の生き方や職業について考える機会がある（H24年度62.7%、H25年度62.3%、H26年度72.2%）」という項目もほぼ10ポイント上昇し、GSやHRで進路指導の充実を図ってきたことを裏付けている。ただ、「進路目標の早期設定」という観点からは、未だあまり成果を実感できておらず、生徒の実態に沿った進路指導をさらに模索する必要がある。 <p>2. 「セルフ・コントロールの力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒にとって「楽しい学校」づくりを進め高校への定着を図るとともに、生徒指導面にも力をいれつつ、遅刻・欠席状況の改善や、服装・頭髪指導等の生徒指導全般の取組みを強化してきている。項目「生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」の肯定的評価が、H24年度の47.7%からH25年度は59.5%に、H26年度は62.7%に上昇していることから、生徒にもこの点が認識され、定着してきていると考えている。 また、項目「学校生活についての先生の指導は納得できる」の肯定的評価が、H24年度の44.0%からH25年度は47.7%、H26年度は50.7%と増加傾向にあり、生徒との信頼関係を大切に地道な指導が浸透しつつあることを示している。保護者も「先生は、子どものまがった行動をきちんと指導してくれる」という項目に対して、H24年度は70.9%、H25年度79.2%、H26年度77.7%と、概ね肯定的に評価していただいております。「高校は、生徒に生命を大切にする心や社会のルールを守る態度を育てようとしている」についても、H24年度67.0%、H25年度75.6%、H26年度77.7%と、本校の教育方針についてご理解、ご協力をいただいている様子が見えてくる。 さらに、生徒用アンケートによると、「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」という項目では、肯定的評価がH24年度の44.5%、H25年度51.1%が、H26年度は60.0%と大きく伸び、また「先生は生徒の意見を聞いてくれる」の肯定的評価はH24年度47.5%、H25年度の51.8%からH26年度は56.6%へと増加してきている。これは、一人ひとりの課題に応えられるような指導・支援が少しずつ定着しつつあることを示していると考えているが、さらに生徒の納得感を高められるよう、より対話を深めるなどの指導の深化や、様々な活動とおしてより深く生徒と関われるような学校づくりをめざしていく必要がある。 しかし一方で、「授業では、騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」という項目については、H25年度が27.5%、H26年度が28.0%と極端に肯定的評価が低く、このことの課題が浮き彫りになっている。もちろん、すべての授業に当てはまることではないものの、生徒が授業に集中し、意欲的に学習できるよう、教員の授業力、指導力の向上を一層図るとともに、全校的に授業への集中度を高めるような取組みについても検討が必要である。 <p>3. 「人間関係づくりの力」の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> 「集団づくり」の取組みの基礎となる学級づくりに関する項目では、「自分の学級は楽しい」の肯定的評価がH24年度は65.6%、H25年度は68.1%、H26年度は69.6%であり、比較的高い水準で微増傾向にある。一方「伯太高校に行くのが楽しい」では、H24年度の60.2%がH25年度には54.6%と低下したが、H26年度には一定回復し、59.0%となった。「伯太高校に入学してよかった」（H24年度項目なし）という満足度は肯定的評価がH25年度に70.9%、H26年度は75.3%と増加してはいるものの、依然として4割の生徒が学校に来ることをあまり楽しいとは思っていない現状から、学校の「居場所」としての機能の強化を図ることが必要である。 また、本校ではこれまでも部活動の活性化に取り組んできており、部活動加入率は数年前の20%台から36%まで高まってきてはいる。生徒の意識をみても、「伯太高校では部活動が活発だ」という項目（H24年度は「部活動に積極的に取り組んでいる」）については、肯定的評価がH24年度の43.3%からH25年度の47.1%、H26年度の51.5%と徐々に増加してきている。また、伯太高校を選んだ理由として「入りたいクラブがあったから」もH24年度28.9%、H25年度も同じく28.9%から、H26年度の33.4%へと増加してきている。これは喜ばしい傾向ではあるが、部活動は、学校における集団づくりの一つの基本的単位をなし、生徒にとって基本的な生活習慣の定着や学習意欲の向上、責任感や連帯感などを高める上でも大きな効果をもたらすものであることから、より一層の活性化が重要である。 また、生徒をエンパワーするための基礎をなす人権教育に関しては、H25年度より「いじめ」についての取組みを強化し始めたところであるが、「先生はいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」という項目で、肯定的評価がH24年度46.6%、H25年度57.0%、H26年度62.8%と増加し、教育相談室等他の取組みとともに、人権を柱とした本校の教育活動が生徒にも評価されつつある。 同様に、保護者のアンケート結果をみても「伯太高校では、自分の生き方を考え、豊かな心をもった生徒を育てようとしている」では、H24年度59.7%、H25年度63.3%、H26年度72.7%と増加し、進路講演会や人権企画等で生徒自らの生き方を問いかける取組みの成果が現れていると思われる。また、「先生は、全ての教育活動において、生徒の人権を尊重する姿勢で指導にあたっている」という項目では、H24年度の62.3%から、H25年度66.4%、H26年度70.1%へと増加しており、教員の指導姿勢にはおおむね共感していただいている。しかし、一方で「高校は、生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」という設問については、H24年度の73.1%からH25年度の68.8%、H26年度の68.4%へと減少している。人々が互いの人権を尊重することそのものが、これからの流動的な国際社会や情報社会を生きていく上での基礎をなすものであり、今後も一層の取組みを行っていくことが必要である。 <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 本校を選んだ理由（複数回答）について過去3年間を比較してみると、H24年度では「自宅に近い(52.4%)」、「中学の先生に勧められた(47.3%)」、「普通科総合選択制だから(46.0%)」の順であり、H25年度には「普通科総合選択制だから(50.7%)」、「自宅に近い(50.2%)」、「中学の先生に勧められた(47.3%)」、H26年度が「自宅に近い(53.3%)」、「普通科総合選択制だから(52.9%)」、「制服が気に入った(49.7%)」となっている。 1年生だけを比較しても、H24年度が「自宅に近い(48.5%)」、「普通科総合選択制だから(44.8%)」、「中学の先生に勧められた(44.2%)」、H25年度が「普通科総合選択制だから(49.2%)」、「自宅に近い(47.0%)」、「制服が気に入った(45.6%)」、H26年度が「自宅に近い(53.6%)」、「制服が気に入った(52.2%)」、「普通科総合選択制だから(50.4%)」となっており、やはり「自宅に近い」ところに「入りたい学校」があることが本校生徒にとって重要だと考えられる。そのためにも、今後とも地域に根ざし、中学校とも一層連携を深めて、生徒にとって「入りたい学校、入ってよかった学校」となれるよう、取組みの充実を図っていく。 	<p>【第1回】（平成26年6月7日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> 伯太高校は「消極的な後追いの生徒指導」ではなく、「積極的で前向きな生徒指導」をされている。生徒がいろいろな行事に積極的に参加して、「伯太に来て良かった」、「学校が楽しい」という形ができていく。 生徒が高校生活を通じて、自分なりの夢を見つけて勉強の意義を感じてくれるような高校であってほしい。 生徒がクラブ活動や学校行事に参加する中で、積極的な生徒指導を通じて、思いのある生徒たちを伸ばしてくれたい。 伯太高校に行きたい、という生徒が少しでも増えるように、「就職に強い」とか何らかの特色を出す必要がある。 遅刻指導の改善、挨拶運動、登下校の立ち番等、先生方がいろいろなことをやってくれているので、PTAも子どもたちに声をかけていくことが大事だと思う。 <p>【第2回】（平成26年11月16日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> 少子化が進んでいる中で、伯太高校の「売り」を明確化していかないといけない。今は学区がなくなってどこの高校でも行くことができるので、伯太高校の「売り」をしっかりと考えていかなければならない。 「学校生活が楽しい」という声を聞く。伯太高校はだんだん良くなってきている。以前に比べて茶髪の生徒が減ってきている。遅刻も減ってきている。 高校入試で、伯太高校の志願者が増えるのが大事である。そのためには、在校生が「伯太高校は良かった」という口コミで広がっていくのがよい。 高校では、集客（生徒がどのくらい来るか）が大事で、次に高校生活の満足度、その結果としての進路、この3段階が大切だと思う。 学校を選ぶときはホームページを見てそのイメージをつかむ。ホームページの効果はとても大きいので、その内容が重要である。伯太高校のホームページにある「伯太なう」はとても良い。 <p>【第3回】（平成27年3月7日開催）</p> <ul style="list-style-type: none"> キャリア教育の観点から、職業を知る、職業体験をする、将来の自分の職業をイメージする、などを通じて、進路目標を持つということが大事である。進路目標を持てば、そのための努力ができる。 基礎学力をつけることは大事だが、生徒が「テストの成績さえよければよい」と思っていたらダメで、身につかない。自分から積極的に、能動的にやるものがあるれば、身につく。 与えられたものを受身的にやっていくだけではなく、学びあいの場をもっと作っていかねばならない。自尊感情をつけるためにも学びあいの場が大事である。また、コミュニケーション能力をつけることも大事である。 （中学生は）総合選択制だからではなく、伯太高校だから選んでいる。伯太の生徒の自己評価が伸びている。いろいろな課題に対して、先生方がそれぞれのポジションでがんばっているから生徒が伸びている。制度が変わっても今まで伯太高校で大事にしてきたことを引き続き伸ばして欲しい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
<p>1. 《自ら学ぶ力》の育成</p>	<p>1. 学習意欲を高める取組の推進 ア. 「わかる！楽しい！授業づくり」</p> <p>イ. 基礎学力の定着をめざす取組</p> <p>ウ. 進路目標の早期設定の取組</p> <p>2. 言語活動の充実 ア. 言語活動充実と生徒による ICT 活用</p>	<p>1 ア. ・学校として研究授業、公開授業を積極的に推進し、これらを行う教員数を増加させる。 ・授業における ICT 活用実績を一層増大させる。 ・「教師が教える授業」と「生徒が学ぶ授業」を意識した取り組み推進のため、研修を企画・実施する。</p> <p>1 イ. ・基礎学力の定着をめざす取組について充実を図る。 ・総合学科改編に向け、授業内容や教育課程の改善を含めた検討を具体的に開始する。</p> <p>1 ウ. ・3 年間を見通した進路指導の計画を充実させ、1 年次早期から進路目標を持たせるための指導に着手する。</p> <p>2 ア. ・各教科・科目での生徒の言語活動を充実させる。</p>	<p>1 ア. ・府立学校に対して公開する授業数を H25 年度程度 (H24 年度実績=7 回、H25 年度=14 回)。 ・授業アンケート中の項目「授業に、興味・関心をもつことができたと感じている」の肯定的回答の前期・後期の平均値 82%以上。 ・生徒向け学校教育自己診断における項目「授業はわかりやすい」との肯定的評価を 68%以上、「授業は楽しい」を 60%以上とする ・生徒向け学校教育自己診断における項目「伯太高校には、教え方に工夫をしている先生が多い」の肯定的評価 57%以上。 ・ICT 活用回数 2,000 回/年以上。 ・授業改善に係る教員研修の開催。</p> <p>1 イ. ・授業アンケート中の「授業を受けて、知識や技能が身についたと感じる」の肯定的回答 83%以上。 ・総合学科改編に向け、授業内容や教育課程の改善を含めた検討組織 (PT) の立ち上げ (4 月)。</p> <p>1 ウ. ・1 年次から 2 年次にかけての「未定」率の半減の実現 (37 期生: 1 年次 37.7%) 及び 3 年次にはゼロに近づける (36 期生: 1 年次 30.0% ⇒2 年次 38.5%)。</p> <p>2 ア. ・普通科総合選択制高校共通アンケートの指定 4 項目 (中期目標参照) の各肯定的評価が 52%以上かつ平成 25 年度実績を上回る。</p>	<p>・20回実施 (◎)</p> <p>・前: 77.4% 後: 80.9% 平: 79.2% (○) ・わ: 65.3% 楽: 59.3% (○)</p> <p>・60.8% (◎)</p> <p>・3,390回 (◎) ・開催 (○)</p> <p>・前: 79.1% 後: 82.3% 平: 80.7% (○) ・5月設置 (○)</p> <p>・次年度4月調査 (未評価)</p> <p>・各々61.3%、51.3%、43.5%、53.9% (○)</p>
<p>2. 《セルフ・コントロールの力》の育成</p>	<p>1. 基本的生活習慣の形成に係る取組の推進 ア. 遅刻指導の工夫・改善と授業規律の確立</p> <p>イ. 生徒指導の充実</p> <p>2. キャリア教育の充実 ア. 進路目標の早期設定の取組 (再掲)</p> <p>イ. 資格取得支援とインターンシップの充実</p>	<p>1 ア. ・遅刻指導についての工夫・改善を図り、遅刻者数の減少を図る。 ・授業規律の確立に向け、授業中の私語等をさらに減らす。</p> <p>1 イ. ・生徒指導体制の充実を図り、学校全体として指導基準を共有しながら取組を進める。</p> <p>2 ア. ・3 年間を見通した進路指導の計画を充実させ、1 年次早期から進路目標を持たせるための指導に着手する。(再掲)</p> <p>2 イ. ・資格取得支援の取組の充実。 ・インターンシップの充実。</p>	<p>1 ア. ・H26 年度実績で遅刻数 14,000 回以下、欠席数 7,000 回以下。 ・H26 年度学校教育自己診断における「授業では騒いだり私語したりする生徒はほとんどいない」の肯定的回答 60%以上。</p> <p>1 イ. ・学校教育自己診断中の指定 4 項目 (中期目標参照) の肯定的回答 55%以上かつ平成 25 年度実績を上回る。</p> <p>2 ア. ・1 年次から 2 年次にかけての「未定」率の半減の実現 (37 期生: 1 年次 37.7%) 及び 3 年次にはゼロに近づける (36 期生: 1 年次 30.0% ⇒2 年次 38.5%)。(再掲) また卒業時での進路実績満足度が少なくとも 8 割程度 (35 期生)。 ・卒業時 (3 月末) の進路未定率 (浪人生含む) を、14%以下とする。</p> <p>2 イ. ・「漢検」、「英検」、「書写検定」、「パソコン検定」、「危険物取扱者」等の資格取得者数が 90 名以上。 ・インターンシップによる単位認定者数 20 名以上。</p>	<p>・遅刻 11,897 回 (-17.0%) 欠席 9,443 回 (+12.1%) (△) ・28.0% (△)</p> <p>・各々56.6%、60.0%、50.7%、62.7% (○)</p> <p>・次年度4月調査 (未評価)</p> <p>・84.5% (○)</p> <p>・次年度4月集計 (未評価)</p> <p>・100 名 (○)</p> <p>・14 名 (△)</p>
<p>3. 《人間関係づくりの力》の育成</p>	<p>1. 生徒をエンパワーするための取組 ア. 集団づくりの充実</p> <p>イ. 部活動の活性化</p> <p>2. 地域とつながる取組 ア. 地域との交流等</p>	<p>1 ア. ・あいさつを含め、教職員から生徒への声かけを積極的に実施。 ・学級及び学年、また部活動を核とした集団づくりの推進。 ・生徒状況の把握に「伯太高校レーダーチャート (HERC: ハーク)」を活用。保護者懇談等でも活用し、生徒一人ひとりの課題について、生徒、保護者、教員間の共有のため活用する。</p> <p>1 イ. ・体験入部等の取組の充実及び後援会等からの部活動支援を通じた部活動活性化策の充実。</p> <p>2 ア. ・現状の取組の継続に加え、新たな取組 (特に近隣中学校との連携) の実現。</p>	<p>1 ア. ・生徒向け学校教育自己診断の「伯太高校に行くのが楽しい」の肯定的評価が 62%以上、「自分の学級は楽しい」が 72%以上。</p> <p>1 イ. ・部活動の加入率を 40%以上、及び運動部の加入率を 15%以上。</p> <p>2 ア. ・地域と連携した取組の拡充。</p>	<p>・各々59.0%、69.6% (△)</p> <p>・9 月 1 日時点 36.0% 運動部 10.4% (△) ・English Party、中学校への出前授業等拡充 (◎)</p>